



# 子供の命を守るために

新聞等で、溺れた子供を救助しようと水に飛び込んだ人が二重遭難したというニュースを見たことはありませんか? このような事故のなかには、水辺の活動において「自分の命は自分で守る(セルフレスキュー)」意識や知識について知っていれば助かる命があったかもしれません。それでは、水難事故からお子様大切な命を守る方法について考えてみましょう。



**Q: 1年のうち、水の事故が多いのはいつでしょうか?**

**答えは6~8月。**

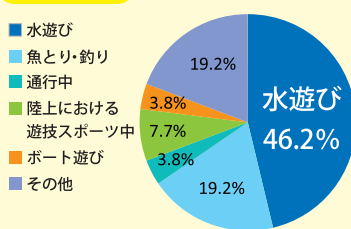
この3カ月間での水の事故が、年間の50%を占めています。海や川など、水に親しむ機会が増える夏こそ、子供たちに対する注意喚起が特に必要です。

●平成29年 水辺の死者・行方不明者の割合(中学生以下)

場所別の割合



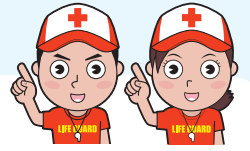
行為別の割合



出典: 警察庁生活安全局地域課(平成29年における水難の概況より)

行為別の円グラフを見ると、**着衣時に起きた事故が大半を占めている**ことがわかります。着衣のままの状態で落水するとパニックになることが多く、重大事故に繋がりがやすいのです。

海・川で注意する場所は!?



海では・・・

海には「**リップカレント(離岸流)**」と呼ばれる、沖へ向かう強い水の流れができることがあります。海で泳ぐときは、この水の流れにのまれないよう注意しましょう。もし離岸流にのまれた場合は、流れに逆らわず、岸に対して平行に泳いで逃げましょう。

川では・・・

強い水の流れや水深の変化により、突然深みに引っ張られることがあるので気をつけましょう。

用水路では・・・

水深僅か 10cm 程度でも転落時に動けなくなったり、体が挟まり水圧で体が押さえつけられて溺れてしまうケースがあることを覚えておきましょう。



覚えよう

水辺で安全に遊ぶための5つのポイント!

① ライフジャケットを着せる

ライフジャケットは、「水に浮く」「温かい」「衝撃から身を守る」「目立つ」という、4つの効果があります。水辺で遊ぶ際は、体のサイズに合ったものを正しく着用させましょう。



② 一人では水辺に行かせない

必ず、監視員や保護者の目の届く範囲で遊ばせましょう。

③ 天気予報や潮汐を調べる

水辺で活動する際は、天気が重要な要素です。当日の天気予報をチェックし、携帯電話などで、常に注意報や警報などの情報を得られるように準備しておきましょう。

④ 体調が悪いときには無理させない

少しでも体調が悪いと感じたときは、入水しない・させないようにしましょう!



⑤ 「自分の命は自分で守る」という意識を持たせる

水辺で注意すべき場所や、万が一の対処法などの知識とともに「自分の命は自分で守る」という意識を持たせましょう!

「知っていること」が役に立つ!

水辺の事故は、万が一の際の対処法を知っていれば自分の命や大切な人の命を守ることができます。下記は「知っていた」ことで助かったケースです。

CASE:01 東日本大震災

小学生5年生のAさんは、津波により体育館が浸水した際、毎年実施していた着衣泳の経験を思い出し、背浮きをして一命を取り留めました!



CASE:02 ため池への転落

小学3年生のBさんは、池のほとりで同級生と遊んでいて足を滑らせ、池に転落しました。しかし、慌てずに背浮きで呼吸を確保。騒ぎを聞いて駆けつけた主婦が、空のペットボトルを投げ、救助を行いました!





## Q: どちらが正しいでしょうか？



### 「音もなくスーっと沈む」が正解！

映画やドラマ等で助けを呼びながら溺れていく姿を見たことがあると思います。しかし実際は、声を上げることが出来ずに溺れていきます。

また、溺れ始めると20～60秒程度で沈んでしまいます。

子供と水辺に遊びに行く際は、目を離さずに、しっかりと監視・声掛けを行いましょう！

## もしも、溺れている人を見つけたら…！？

### ・水に入って助けない！

溺者は助かろうと必死に掴んできます。そのため、水に入って助けようとする、自分も溺れて、二次遭難につながります。

### ・浮くものを投げ入れる！

ペットボトルやボールなどがある場合は、投げることを予告してから、浮く物を投げ入れてあげましょう。

### ・助けを呼ぶ！

川や池などは119番(消防署)。  
海では118番(海上保安庁)。  
子供の場合は、周りの大人に助けを求めよう。

### ランドセル



### クーラーボックス



### ボール



小学生には一番身近なランドセルや、クーラーボックス、ボールでも浮けるのよ！



## もしも、着衣の状態の水に落ちてしまったら…！？

### ・慌てずに周囲の状況を確認！

慌てずに、自分で上られるような状況なのか、助けを待った方がよいのか、周囲の状況を確認しましょう！

### ・服や靴は脱がない！

洋服や靴を着用していると、服に含まれる空気や、靴自体に浮力があるため、浮きやすくなります。逆に、水中で衣服を脱ぐ行為は、溺水に繋がる危険性があります。

### ・水に浮いて助けを待つ！

体の力を抜き、手はバンザイの形にして、足を軽く広げる、「背浮き」の姿勢で呼吸を確保し、浮いて救助を待ちましょう！  
また、陸上から浮く物を投げてもらった場合、お腹に抱えて浮き身の姿勢を確保しましょう！



これが背浮きの様子。  
洋服や靴を履いていれば、大の字の姿勢でも、浮けるのよ！

